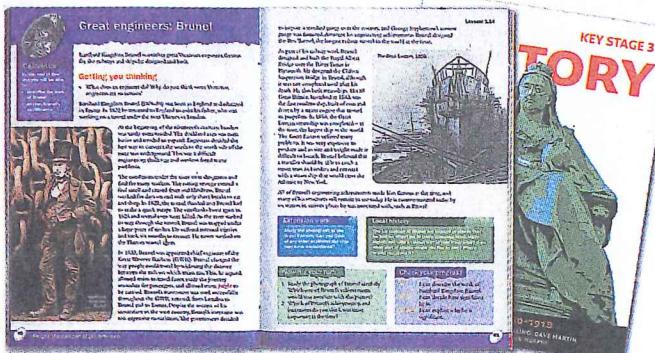


公共事業と教育-学びの場から考える-

No. 9

英国では、中学教科書に偉大なエンジニアであるブルネルが紹介されるなど、エンジニアに権威がある



イギリスのエンジニアに権威があり、国民からの信頼が厚いといふ事実は、こうした先人たちの努力と功績によるものです。

(毎週火曜日掲載)

インフラに関する記述では、教科書冒頭、ドーバー海峡を渡つて来たヴィリアム1世が、現地イングランド人に対する防衛基盤として、またノルマン人の支配と統治を印象づけるシンボルとして、数多くの城郭を建設したことなどが取り上げられています。

さらに中世の歴史を通して、都市の防御・成長の前提として城壁という装置インフラが不可欠であったこと、また狭い城壁内で生活する住民たちは、暮らしの不便を受け入れながら、数多くのルール(制度インフラ)を守って生活しなければならなかつたことが詳しく解説されています。都市城壁とその中で暮らす市民生活を学習すること

イギリス(イングランド)では、「地理」と「歴史」はKS3 (Key Stage 3) 中学校までが必修科目で、KS4(高校)は選択科目になっています。KS3の「歴史」では、3年間かけて「中世以降のイギリス史」を学習します。

歴史教科書の各単元の学習テーマは、その多くが「問い合わせ」で始まっており、本文解説だけでなく写真、絵画、肖像画、古文書、スケッチ、地図など多様で豊富な資料を活用しながら、古文書(原典)に基づいて歴史上の諸問題について考える教育①証拠(原典)に基づいて歴史②複数の解釈を比較・分類することにより物事を批判的に見る力を持つ教育③過去の意思決定や歴史事象を現在に当てはめて考える教育一が展開されています。

3 (Key Stage 3) 中学校までが必修科目で、KS4(高校)は選択科目になっています。KS3の「歴史」では、3年間かけて「中世以降のイギリス史」を学習します。

KS3の中

12(平成24)年3月19日、デ

ーヴィッド・キャメロン首相は、英國土木学会での講演において、「インフラストラクチャーは現代生活を支え、経済戦略の重要な要素であることから、後に回しにできる課題ではない。インフラは国のビジネスの競争力を影響し、まだビジネスを成功へと導く見えない糸である。

(中略) インフラは、今日では想像できないような明日を実現する力を持っている。もし我々のインフラが二流になれば、我々の国も二流になる。現在、我々が恩恵を受けている数多くのインフラの発祥の地は、ここに英雄には、ウエストミンスター寺院に埋葬されている歴代の首相やチャーチルズ・ディケンズのよつな偉大な小説家と並んで、ブルネル、スティーブンソン、テルフォードといった技術者が含まれる。我々は、ビクトリア朝のしゃれた建築様式をもち、ノルマン城郭のよごな持続的な構造を有する大胆な橋や開放的な駅舎を継承している。世界に対するわが国の遺産は、言語や文化だけでなく、蒸気機関、ジエット・エンジン、鉄道、原子力にまで及んでいます。その証拠に、トマス・テルフォード(英國土木学会初代会長)やロバート・スチーブンソン(ジョージ・スチーブンソンの一人息子、英國土木学会第8代会長)は、イギリス国家に対し最大級の貢献をした人々のみが眠るウエストミンスター寺院に埋葬されています。

●●9

公共事業と 教育

学びの場から考える
国土学アーティスト 森田 康夫

近代以降では、ターンパイク(有料道路)、運河、鉄道という交通インフラの革命的発展が、産業革命を引き起こし、パックス・ブリタニカの牽引車となつたことを詳細に説明しています。

特に鉄道整備とその効果に関する扱いは大きく、「偉大なエンジニア」として、ジョージ・スチーブンソンやイザムバード・キングダム・ブルネルが、それ見開きのページを使って紹介されているのも大きな特徴です。

・ブリタニカの牽引車となる扱いは大きく、「偉大なエンジニア」として、ジョージ・スチーブンソンやイザムバード・キングダム・ブルネルが、それ見開きのページを使って紹介されているのも大きな特徴です。

大英帝国の礎を築いた交通インフラとエンジニア

出典：日刊建設工業新聞

12面